



**Data**

監督：瀬々敬久  
 脚本：林民夫、瀬々敬久  
 原作：中山七里『護られなかった者たちへ』（NHK 出版刊）  
 出演：佐藤健／安部寛／清原果耶／林遣都／永山瑛太／緒形直人／岩松了／波岡一喜／奥貫薫／井之脇海／宇野祥平／黒田大輔／西田尚美／千原せいじ／原日出子／鶴見辰吾／三宅裕司／吉岡秀隆／倍賞美津子

■■■ショートコメント■■■

◆ベストセラー作家・中山七里の同名小説は“東日本大震災から10年”を経て、震災復興が進む（遅々として進まない？）仙台で起きた、連続殺人事件をめぐるミステリー。全身を縛られたまま放置され、餓死させられるという状態で発見された被害者は、2人とも元仙台市青葉区福祉保健事務所勤務の男だった。その犯人は一体誰？その動機は？

日本国憲法25条は「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。」と定めており、それを担保する法律の1つとして「生活保護法」があるが、その実態は？日本社会の“生活保護”をめぐる問題点は根深いが、そうかといって、なぜこんな連続殺人事件にまで？そんな社会問題の映画化なら、『64 ロクヨン 前編』（16年）（『シネマ38』10頁）、『64 ロクヨン 後編』（16年）（『シネマ38』17頁）の瀬々敬久監督が最適！

◆本作の主演として登場する若者・利根泰久役を演じた佐藤健を私は全然知らなかったが、宮城県警捜査一課の刑事・笹篠誠一郎を演じた阿部寛は私の大好きな俳優。また、本作では震災から10年後の今、福祉保健事務所のケースワーカーとして働いている円山幹子がストーリー構成上のキーウーマンになるが、その女優・清原果耶も私は全然知らなかった。他方、倍賞美津子演じる老婆・遠島けいはいどんな役割を？さらに、あわや第3の被害者になりかけるのが、吉岡秀隆演じる上崎岳大。彼は現在は国会議員だが、かつては福祉保健事務所の職員だったらしい。したがって、その事件にも生活保護に絡む深い病根が・・・？

ちなみに、本作をDVD鑑賞した8月24日には、福岡の特定危険指定暴力団である工藤会トップの野村悟総裁に対する死刑判決が下された。直接証拠の乏しいこの事件で、死刑判決を下すのは至難の業だが、本作に見る連続殺人事件の容疑者を特定し、その逮捕に向かうことがそんなに難しいの？笹篠と蓮田智彦（林遣都）の凹凸コンビの問題点は頭者だが、捜査会議に出席している数十名、いや百名近くにのぼる捜査員たちは一体何をしていた

るの？私にはそんな疑問が強いが・・・。

◆生活保護をめぐる問題点が多いが、本作における幹子の目を通して見る問題点は如何に？彼女がケースワーカーを志した動機は何？そして、ケースワーカーとして今、何を実現しようとしているの？それは、震災直後に利根と共に遠島けいの生活保護申請のために奮闘する姿を見ればよくわかる。国に頼ることを渋っていたけいは、やっと生活保護申請に同意したはずなのに、その後、なぜ勝手にそれを取り下げってしまったの？

瀬々敬久監督はそんな問題点を本作で如何に描くのだろうか？私はそこに注目したが、残念ながらイマイチ・・・。

◆阿部寛が全編英語のセリフに挑戦したマレーシア映画『夕霧花園』（19年）は、3つの時間軸を移動させながら、美しいカメラワークで興味深いストーリーを紡いでいた。それと同じように、本作でも“震災直後”と“震災から10年後”という2つの時間軸を移動させながら、2つの殺人事件の捜査を通じて、生活保護の問題点を浮き彫りにしていく。しかし、『夕霧花園』では庭園作りの謎はもとより、“山下財宝”や“金のユリ”等々のキーワードが謎に包まれていたから、結局、阿部寛演じる日本皇室庭師が日本軍のスパイだったのか否かは分からないまま、ストーリーが展開していた。

ところが、本作では利根の目つきを見ているだけで最初から犯人は分かってしまうし、その動機もすぐに見えてくる。近時の邦画は分かりやすさが目立つが、それって映画作りの上でいいことなの？そう考えると、そもそも『護られなかった者たちへ』というタイトルも、あまりにわかりやすいものでは？

本作ラストは大団円に至る（？）が、そんな結末をどう考えればいいのか？たしかに納得感は大切だが、こんなにみんなが納得してしまう結末にして何が面白いの？私はそう思わざるを得なかったが・・・。

2021（令和3）年8月25日記